

18歳までの医療費は都の実施待ちでなく区が先行して無料に

「ドブツク」を全職員に配付し、活用するとともに、職員や指定管理者を対象にISO9001（ISO）研修を実施し、職員等の意識向上に努めてまいります。

18歳までの医療費を無料に

【質問】機会ある毎に、18歳までの医療費無料化を求めてきました。区は、「高校生は、医療機関を受診する割合が低い」ので「助成は考えていない」との答弁です。高校生全体では医療機関にかかる割合は低くなっています。しかし、医療費を医療機関にかかった人数で割ると、15歳～19歳が1万8990円と高く、高校生世代の医療費負担は大変なのです。東京都は2023年度から、子どもの医療費助成の対象を18歳までに拡大する方針を明らかにしました。都の実施を待つのではなく、この4月から18歳までの医療費無料化に踏みだすこと。

【答弁】独自で助成対象を拡大する予定はありません。

じどもへの10万円給付

【質問】国は、子どもへの10万円相当の給付が、昨年9月以降に離婚したひとり親に届いていない問題で、2月28日時点で子どもを養育している親に給付する方針を発表しました。市区町村の窓口での申請になります。(1)対象者には申請漏れがないように支援すること。(2)児童手当受給者が対象のため、年収960万円(扶養家族の人数に応じて)は超えるため、受給世帯より収入が少くとも支給されない世帯があるという矛盾が起きています。港区で給付対象外は56%。今回、対象外になつた世帯への臨時給付金を支給すること。

【答弁】①既に把握している該当者に対して支給の手続きを進めています。また、電話などで問合せがあつた方も、申請書を郵送し、速やかに対応しております。(2)対象外になつた世帯への給付は予定してあります。

国保料の値上げは許さない

【質問】①非常事態に伴う医療費増について、国や東京都に財政支援を求めること。②一番身近な自治体として、区独自の財政負担も含め、あらゆる努力をして保険料の値上げをやめ、軽減に踏み出すべきです。

【答弁】①特別区長会は、昨年12月、必要な財政措置を特例的に講じるよう、厚生労働省と東京都に對して緊急要望

いたしました。②特別区において来年度の保険料率の算定作業を進めておりますが、保険料の上昇を抑えることとも考慮した検討を行つております。

学童保育指導員の処遇改善

【質問】国が全額支援する「放課後児童支援員等待遇改善臨時特例事業」が2月から実施され、2月中に事業者からの申請が必要です。(1)もれなく申請し、賃金引き上げが行われるように指導すること。(2)10月以降は、国、東京都、港区が3分の1づつ負担する仕組みです。10月以降も国の責任で待遇改善を継続するよう要請すること。国が実施しない場合は、継続のための必要な予算を確保すること。

【答弁】①全ての事業者から交付申請に必要な書類の提出を受け、速やかに国への交付申請を行つてあります。②国に対して、要請するとは考えておりません。

【質問】今回の処遇改善は、民間だけでなく港区で働く会計年度任用職員も対象となります。(1)保育園や学童クラブで働く会計年度任用職員の報酬を改正すること。(2)他の職場で働く会計年度任用職員の報酬も引き上げること。

【答弁】①保育士などの会計年度任用職員の報酬については、民間の賃金水準を反映した常勤職員と同じ給料表を適用し、職責や勤務時間に応じた報酬額を決定しており、平均的な賃金水準を下回るものではないと考えてあります。(2)常勤職員の給与や民間・他団体の同種の職の報酬を踏まえ、決定してあります。②民間の賃金水準を反映したものとなりてあります。

ヤングケアワーについて

【質問】ヤングケアワーの啓発パンフレットの作成、実態調査を行うべきです。

【答弁】昨年8月に、小・中学生向けに作成したリーフレットを学校や児童館等で配布しております。また、港区要保護児童対策地域協議会の関係機関と情報を共有し、生育環境に課題のある家庭を直接訪問して、実態を把握し適切な支援につなげております。

給水スタンドを区有施設に

【質問】プラスチックを少しでも減らすことを考えたら、マイボトルの活用は取り組みやすい方法です。(1)港区でも白金台いきいきプラザだけでなく、施設可能な区施設に、給水スタンドを設置すること。(2)区施設内の自販機は、

【答弁】①区有施設へのボトルディス

ウクライナに平和を



【質問】

【教育長答弁】

①高輪大木戸付近の一部を残して、その他は解体、撤去、移築等が進んでいます。2月20日には、全国から約300人が参加する見学会を予定しております。②5・6街区については、昨年5月に、教育委員会から高輪築堤跡の現地保存を考慮した開発計画を策定するようJR東日本に要望書を発出してあります。

高輪築堤の完全保存を



プラスチックを減らそう マイボトルで給水



ベンチャー型の給水機については、今後も研究してまいります。②区有施設の自動販売機のペットボトル飲料を取り扱いを、一定程度残しつつ、缶飲料への切替えを進めてまいります。缶飲料などへ順次切り替えてまいります。一方で、障害のある方には持ちやすさの点で、ペットボトル飲料が欠かせないというご意見もいただいてあります。今後は、こうした点にも配慮し、自動販売機のペットボトル飲料を、